

広島市男女共同参画社会の実現に向けたアンケート調査結果について

1 調査の概要（令和7年1月実施）

- (1) 調査対象 市内に居住する15歳以上の方の中から3,500人を無作為抽出
- (2) 回収数 1,145人（32.7%）

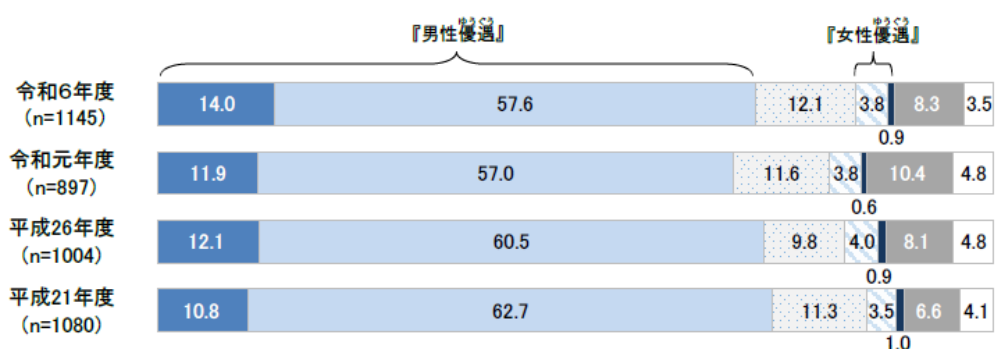
2 主な調査結果

1 男女平等意識について

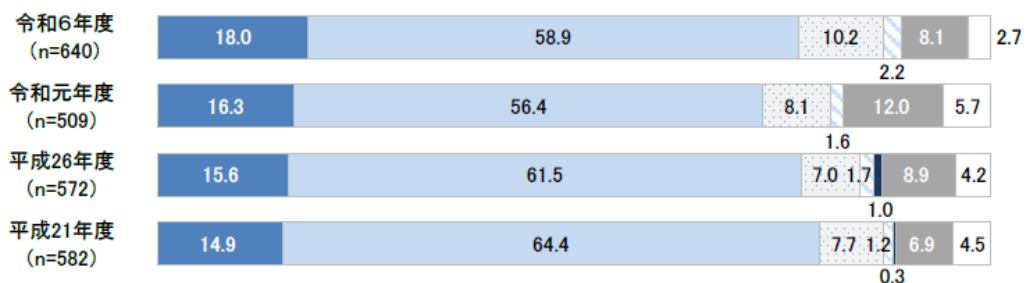
問1 あなたは次のような場で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
（⑧社会全体では）

【社会全体での男女の地位の平等（性別）】

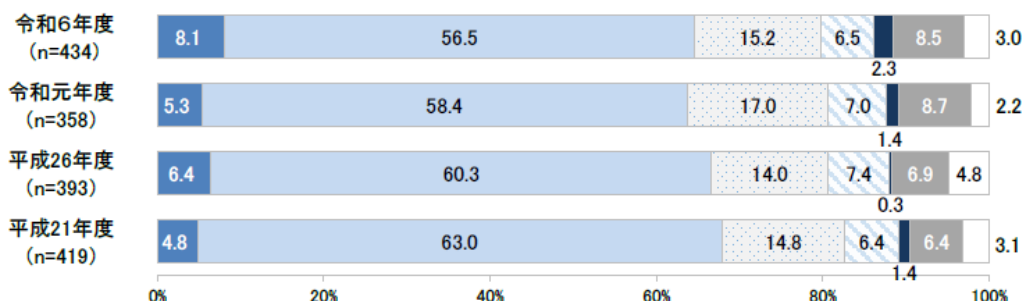
（全体）



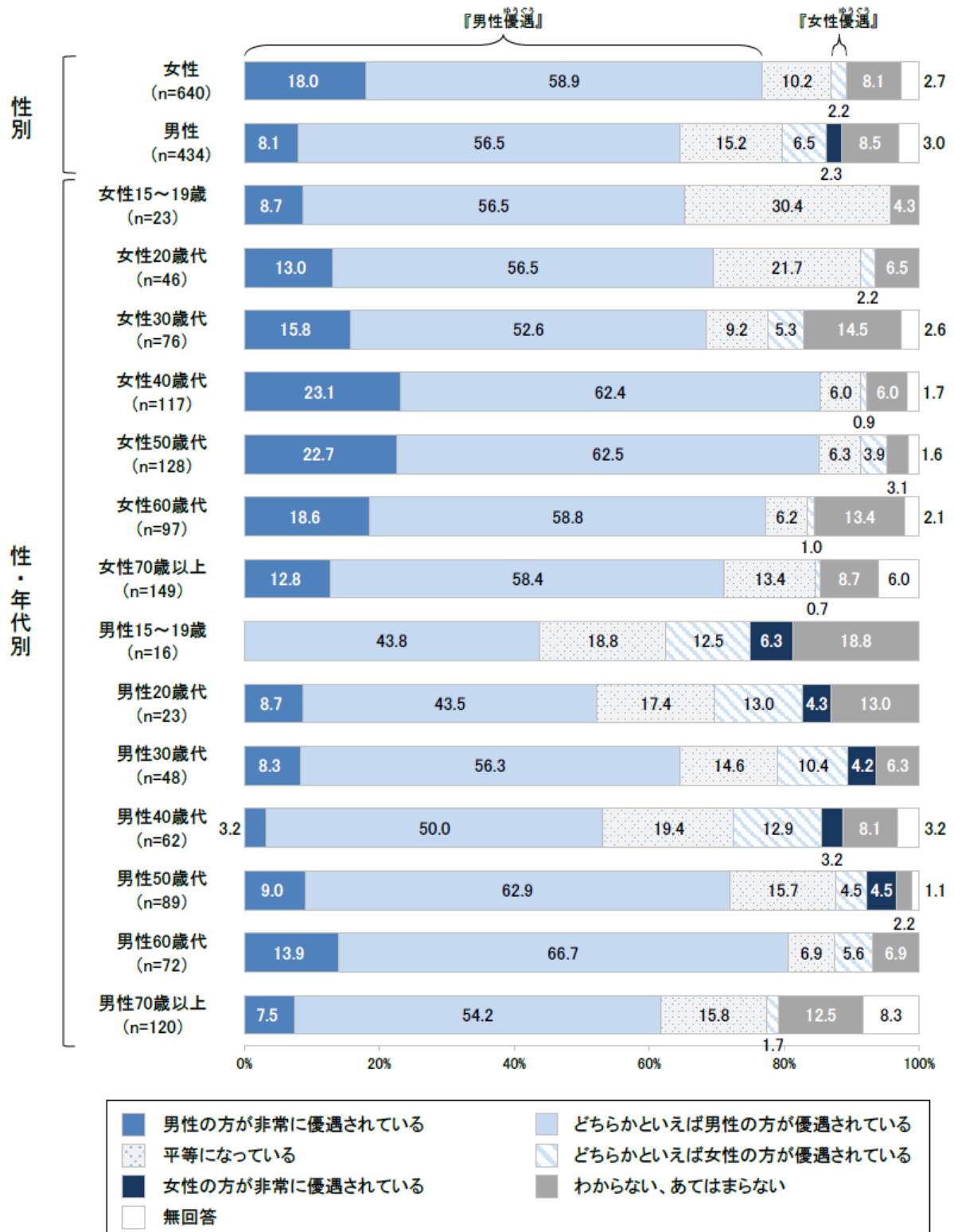
（女性）



（男性）



【⑧社会全体での男女の地位の平等（性別、性・年代別）】



(1) アンケート結果

- 社会全体での男女の地位の平等について、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合）との回答は 71.6%、『女性優遇』（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」を合わせた割合）との回答は 4.7%となっている。
- 経年比較すると、『男性優遇』と回答した割合は令和元年度まで減少傾向にあったが、今回調査では 2.7 ポイント、令和元年度調査を上回っている。

- 男女それぞれについて経年比較すると、男女ともに『男性優遇』と回答した割合は令和元年度まで減少傾向にあったが、今回調査では女性が 4.2 ポイント、男性が 0.9 ポイント、令和元年度調査を上回っている。
- 性別にみると、『男性優遇』と回答した割合は女性（76.9%）が男性（64.6%）を 12.3 ポイント上回っている。
- 性・年代別にみると、『男性優遇』と回答した割合は女性 40 歳代(85.5%)が最も高く、次いで女性 50 歳代(85.2%)、男性 60 歳代(80.6%)の順となっている。

(2) アンケートから分かること

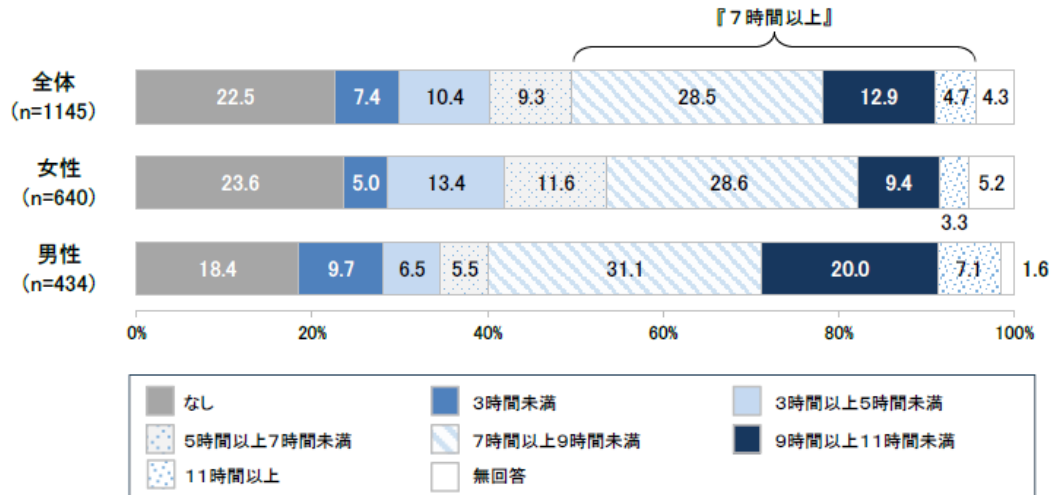
社会全体において、男女の地位の平等について、『男性優遇』と回答した割合は減少傾向にあったが、今回調査では僅かに令和元年度調査を上回った。本市においては、男女共同参画推進条例の基本理念の一つとして「政策又は方針の立案及び決定への共同参画」を掲げ、女性の参画の拡大に取り組んできたものの、依然として社会全体が変わるまでには至っておらず、男女共同参画社会を実現するためには、あらゆる分野における女性の参画を拡大させる必要がある。

2 仕事と家庭等の両立について

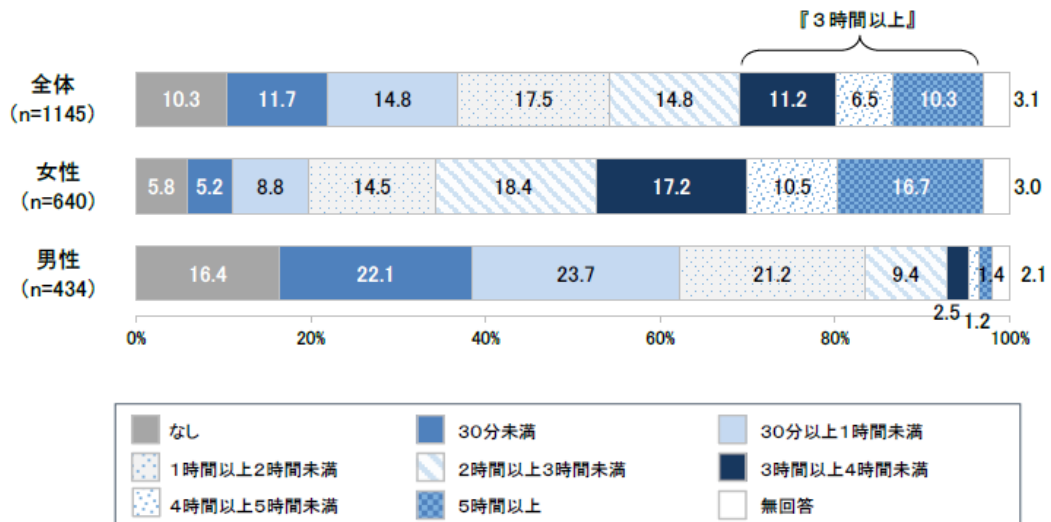
問5 1日のうちであなたが、仕事や家事全般（家事、育児、介護を含む）に要する時間は、平日（働いている人は勤務日）のどのくらいですか。

※令和元年度以前にはない問

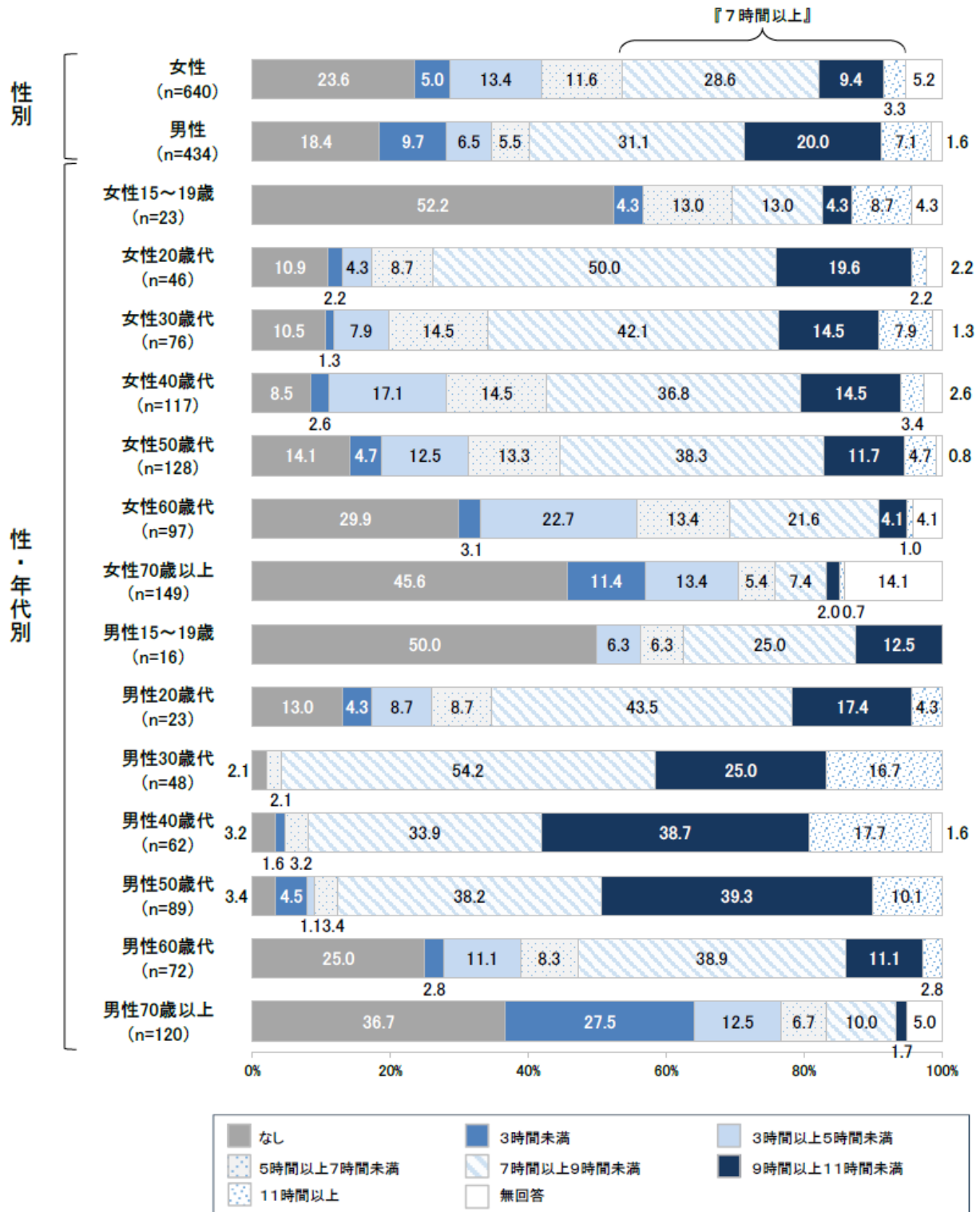
【①仕事（全体・性別）】



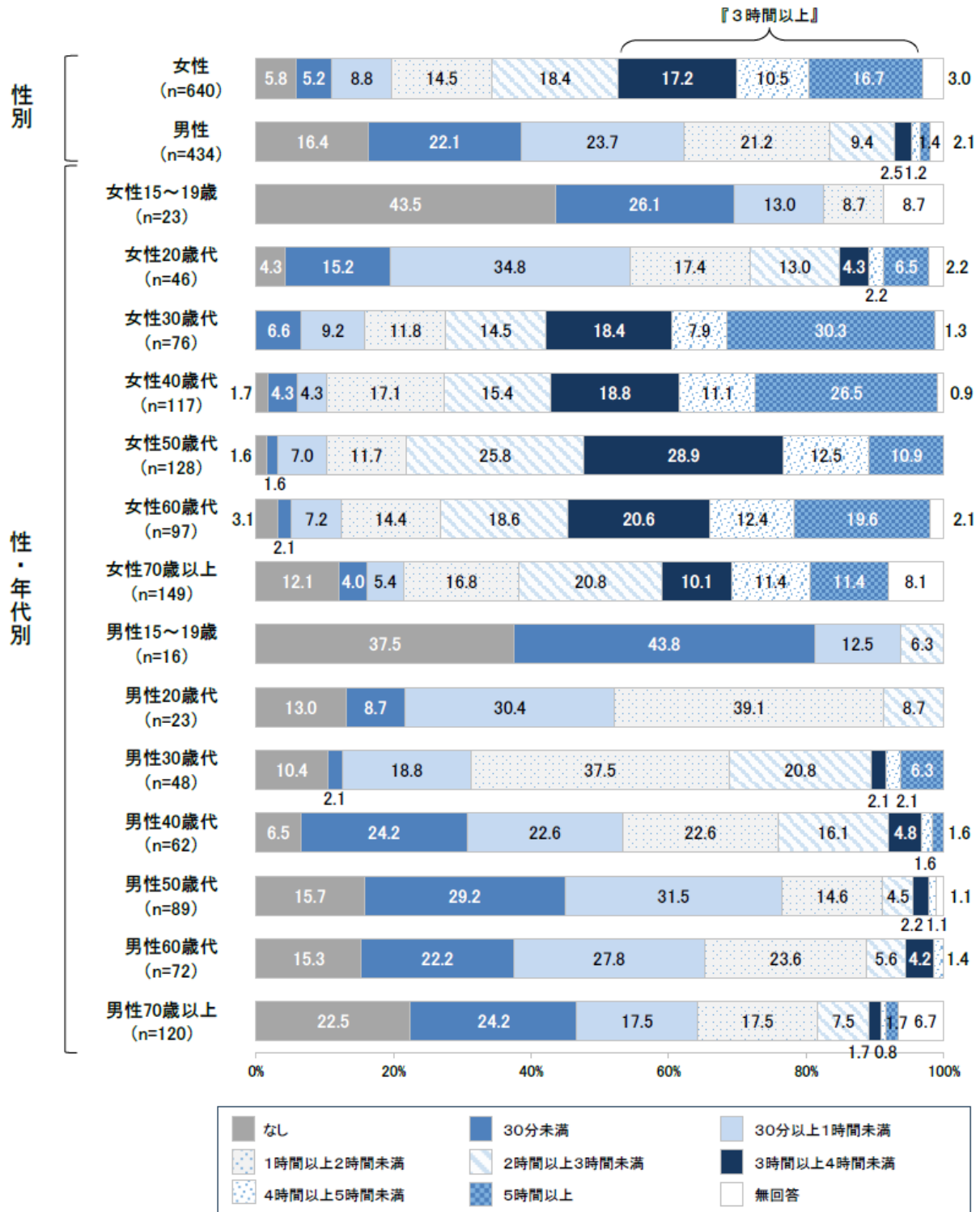
【②家事全般（育児、介護を含む）（全体・性別）】



【①仕事（性別、性・年代別）】



【② 家事全般（育児、介護を含む）（性別、性・年代別）】



(1) アンケート結果

- 平日の1日の生活時間について、①仕事に要する時間では、46.1%の人が『7時間以上』と回答しており、性別にみると、男性（58.2%）が女性（41.3%）を16.9ポイント上回っている。
- 一方、②家事全般（育児、介護を含む）に要する時間では、28.0%の人が『3時間以上』と回答しており、性別にみると、女性（44.4%）が男性（5.1%）を39.3ポイント上回っている。

- ・①仕事に要する時間について、性・年代別にみると、『7時間以上』と回答した割合は 20 歳代を除く各年代で男性が女性を上回っており、30 歳代は 31.4 ポイント、40 歳代は 35.6 ポイント、50 歳代は 32.9 ポイント、60 歳代は 26.1 ポイント、それぞれ高くなっている。
- ・②家事全般（育児、介護を含む）に要する時間について、性・年代別にみると、『3時間以上』と回答した割合は 15～19 歳を除く各年代で女性が男性を上回っており、30 歳代は 46.1 ポイント、40 歳代は 48.4 ポイント、50 歳代は 49.0 ポイント、60 歳代は 47.0 ポイント、それぞれ高くなっている。

(2) アンケートから分かること

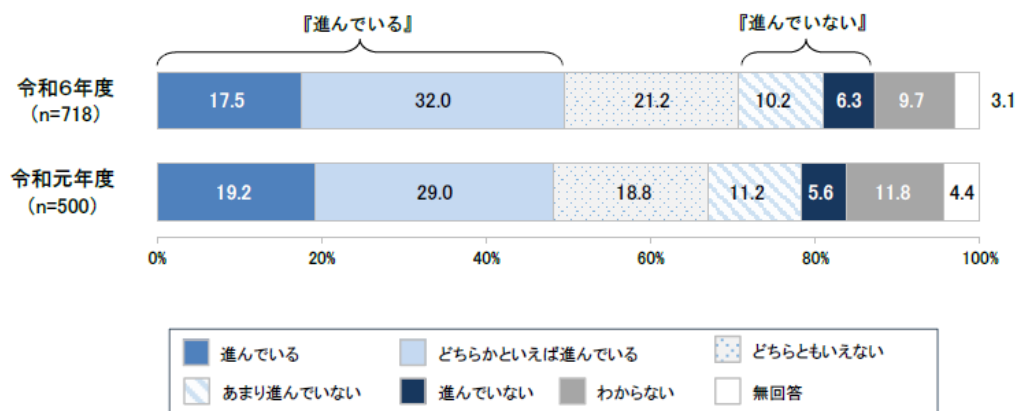
女性で仕事に要する時間が『7時間以上』と回答した割合は、20 歳代が最も高く、以降は年代が上がるにつれて、減少している。これは、正規雇用で働く女性の比率が 20 歳代後半でピークを迎えた後、低下を続けるという「L 字カーブ」と関連しており、出産後、育児等との両立のため非正規雇用を選択せざるをえないケースが多いと考えられる。

また、家事全般に要する時間は、女性が男性に比べ非常に多くなっている。これは、男性＝仕事、女性＝家庭といった固定的な性別役割分担意識が根強く残っていることの表れでもあり、こうした意識の解消に向けて引き続き取り組んでいく必要がある。

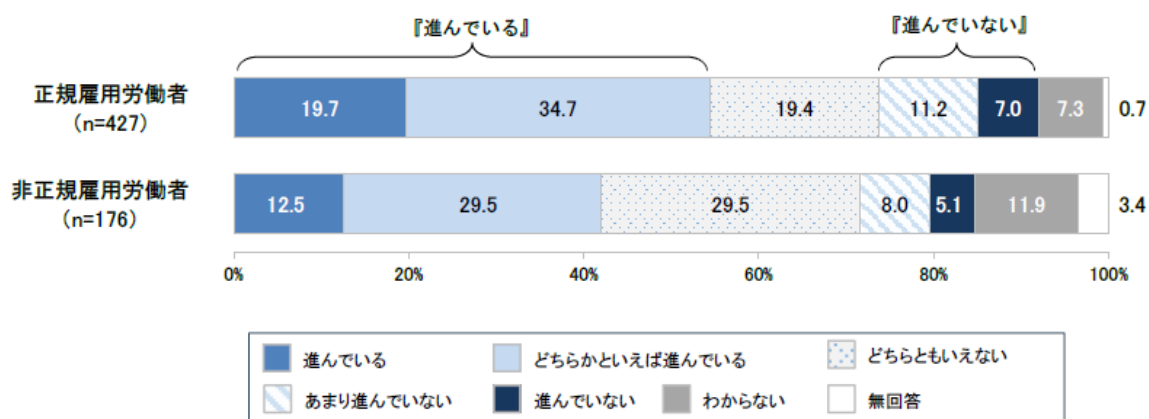
3 就労について

問14 あなたの職場では女性活躍の取組は進んでいると思いますか。

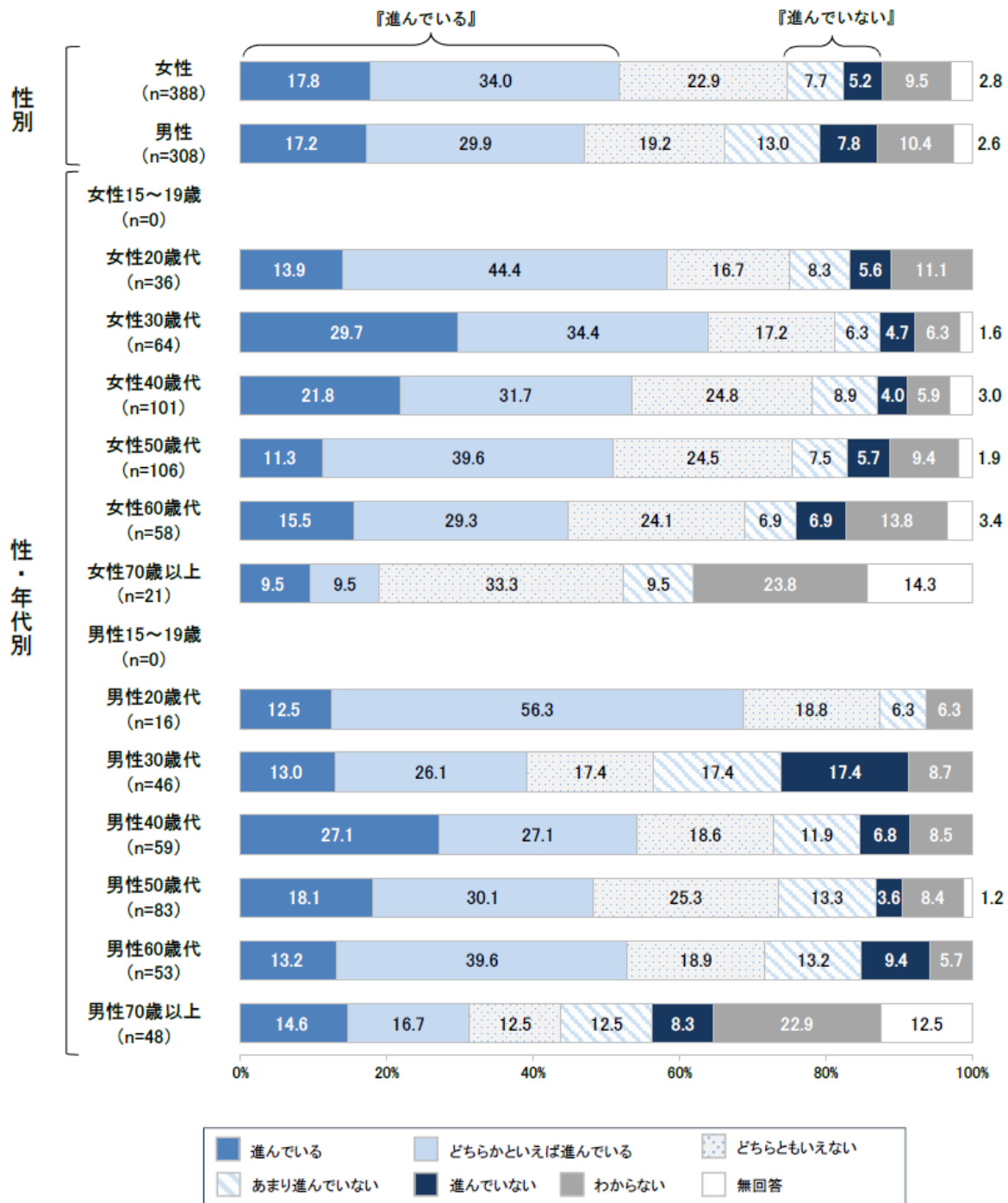
※平成26年度に以前はない問



【職場における女性^{かつやく}活躍への取組（就労形態別）】



【職場における女性活躍への取組（性別、性・年代別）】



(1) アンケート結果

- 職場における女性活躍への取組について、『進んでいる』（「進んでいる」と「どちらかといえば進んでいる」を合わせた割合）との回答が 49.5%、『進んでいない』（「進んでいない」と「あまり進んでいない」を合わせた割合）との回答が 16.5%となっている。
- 経年比較すると、『進んでいる』と回答した割合は 1.3 ポイント、今回調査が令和元年度調査を上回っている。
- 就労形態別にみると、『進んでいる』との回答は、正規雇用労働者（54.4%）が非正規雇用労働者（42.0%）を 12.4 ポイント上回っている。
- 一方で、『進んでいない』についても正規雇用労働者（18.2%）が非正規雇用労働者（13.1%）を 5.1 ポイント上回っている。

- 職場における女性活躍への取組について、性別にみると、『進んでいる』と回答した割合は女性（51.8%）が男性（47.1%）を 4.7 ポイント上回っている。
- 性・年代別にみると、『進んでいる』と回答した割合は男性 20 歳代（68.8%）が最も高く、次いで女性 30 歳代（64.1%）、女性 20 歳代（58.3%）の順となっている。一方、『進んでいない』との回答は男性 30 歳代（34.8%）で最も高く、次いで男性 60 歳代（22.6%）、男性 70 歳以上（20.8%）の順となっている。

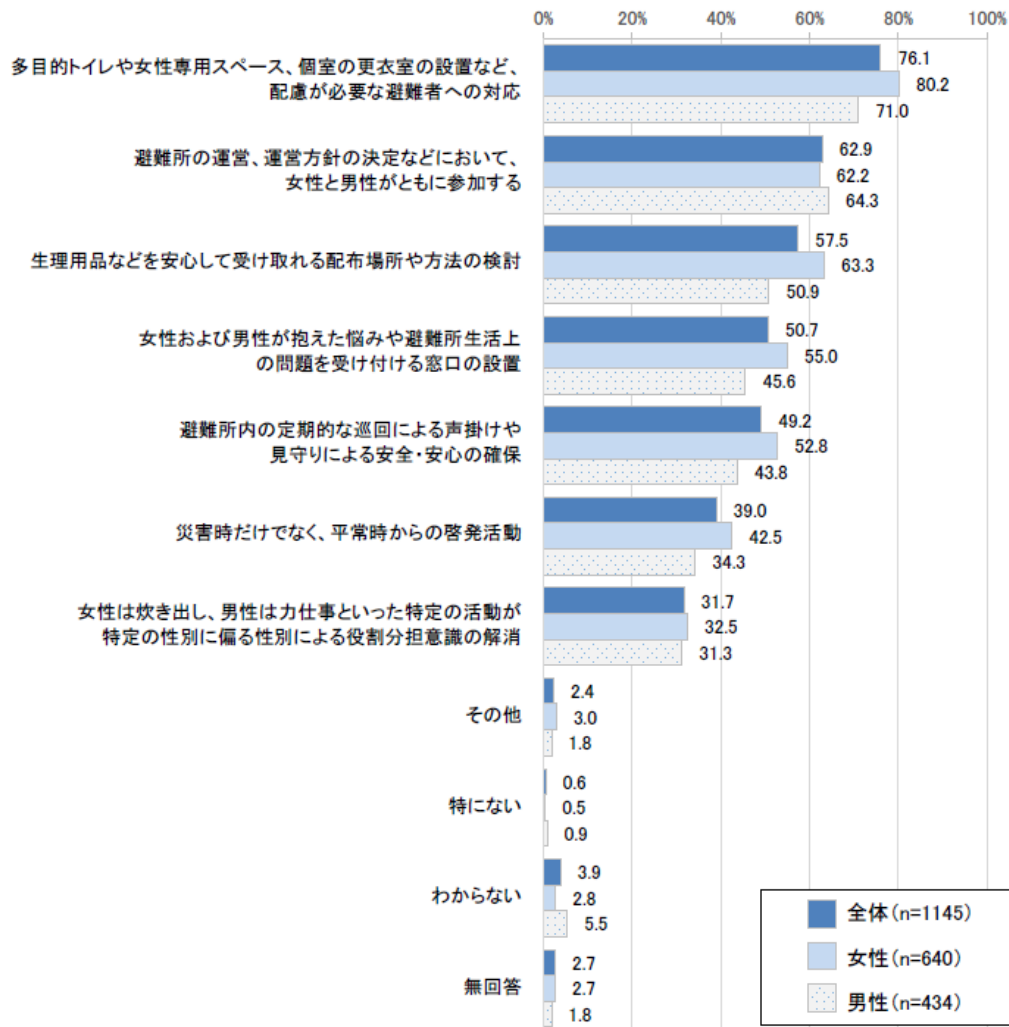
(2) アンケートから分かること

職場において、「女性活躍の取組は進んでいる」と回答した人の割合は、前回調査よりも増加しているものの、依然として約半数に留まっている。男女共同参画社会を実現するためには、働く場における男女共同参画の推進に取り組む必要がある。

4 地域での男女共同参画について

問19 あなたが災害時の避難所運営について必要だと思うことは何ですか。

※令和元年度以前にはない問



【災害時の避難所運営について必要なこと（性別、性・年代別）】

（複数回答）（％）

		回答者数（人）	必要な避難者への対応	個室の更衣室の設置など、配慮が	多目的トイレや女性専用スペース、	避難所の運営、運営方針の決定	などに参加する	生理用品などを安心して受け取れる配布場所や方法の検討	女性および男性が抱えた悩みや避難所生活上の問題を受け付ける窓口の設置	避難所内の定期的な巡回による安全・	声掛けや見守りによる安全・	避難所発活動	災害時だけでなく、平常時から	偏った特定による役割分担意識の解消	女性とは炊き出し、男性は力仕事と	その他	特にな
全体		1145	76.1	62.9	57.5	50.7	49.2	39.0	31.7	2.4	0.6						
性別	女性	640	80.2	62.2	63.3	55.0	52.8	42.5	32.5	3.0	0.5						
	男性	434	71.0	64.3	50.9	45.6	43.8	34.3	31.3	1.8	0.9						
女性	15～19歳	23	78.3	65.2	73.9	52.2	56.5	52.2	39.1	4.3	-						
	20歳代	46	78.3	65.2	69.6	60.9	52.2	50.0	52.2	-	-						
	30歳代	76	82.9	59.2	68.4	47.4	42.1	40.8	32.9	2.6	-						
	40歳代	117	85.5	62.4	71.8	56.4	58.1	49.6	34.2	5.1	0.9						
	50歳代	128	81.3	60.2	65.6	50.8	60.2	38.3	28.9	3.9	-						
	60歳代	97	82.5	61.9	63.9	62.9	53.6	42.3	28.9	4.1	-						
	70歳以上	149	73.2	63.8	47.0	53.7	46.3	38.3	30.2	0.7	1.3						
男性	15～19歳	16	56.3	62.5	50.0	12.5	43.8	25.0	31.3	-	-						
	20歳代	23	82.6	78.3	52.2	39.1	52.2	26.1	21.7	4.3	4.3						
	30歳代	48	66.7	58.3	52.1	37.5	56.3	35.4	33.3	2.1	4.2						
	40歳代	62	80.6	64.5	58.1	43.5	45.2	32.3	32.3	3.2	1.6						
	50歳代	89	74.2	69.7	58.4	51.7	39.3	38.2	29.2	1.1	-						
	60歳代	72	80.6	69.4	58.3	61.1	45.8	38.9	38.9	-	-						
	70歳以上	120	59.2	57.5	37.5	41.7	38.3	32.5	28.3	1.7	-						

(1) アンケート結果

- ・災害時の避難所運営について必要なことについて、「多目的トイレや女性専用スペース、個室の更衣室の設置など、配慮が必要な避難者への対応（76.1%）」との回答が最も多く、次いで「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加する（62.9%）」、「生理用品などを安心して受け取れる配布場所や方法の検討（57.5%）」の順となっている。
- ・災害時の避難所運営について必要なことについて、性別にみると、「生理用品などを安心して受け取れる配布場所や方法の検討」で最も男女差が大きく、女性（63.3%）が男性（50.9%）を 12.4 ポイント上回っている。
- ・性・年代別にみると、「多目的トイレや女性専用スペース、個室の更衣室の設置など、配慮が必要な避難者への対応」と回答した割合は女性 40 歳代（85.5%）が最も高く、次いで女性 30 歳代（82.9%）、男性 20 歳代（82.6%）の順となっている。また、「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加する」と回答した割合は男性 20 歳代（78.3%）が最も高く、次いで男性 50 歳代（69.7%）、男性 60 歳代（69.4%）の順となっている。

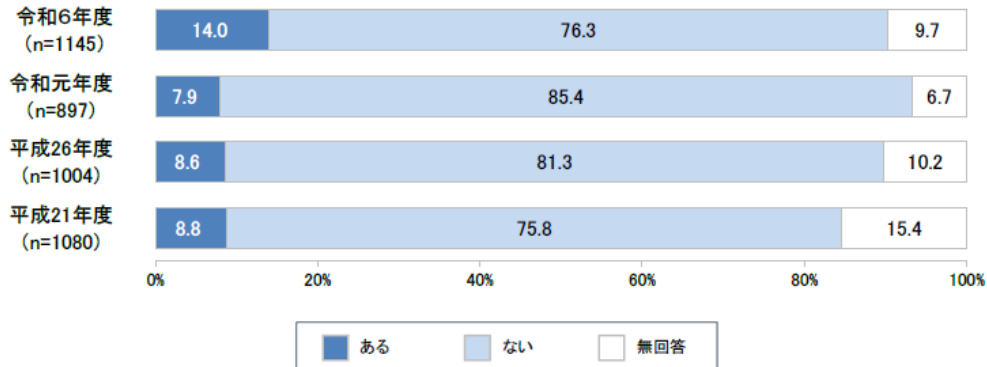
(2) アンケートから分かること

災害時の避難所運営について必要なこととして、「生理用品などを安心して受け取れる配布場所や方法の検討（12.4 ポイント）」、「女性および男性が抱えた悩みや避難所生活上の問題を受け付ける窓口の設置（9.4 ポイント）」など複数の回答で男女間において、大きな差が出ている。女性と男性が災害から受ける影響やニーズは異なるため、女性の視点に立った防災・復興の取組を促進する必要がある。

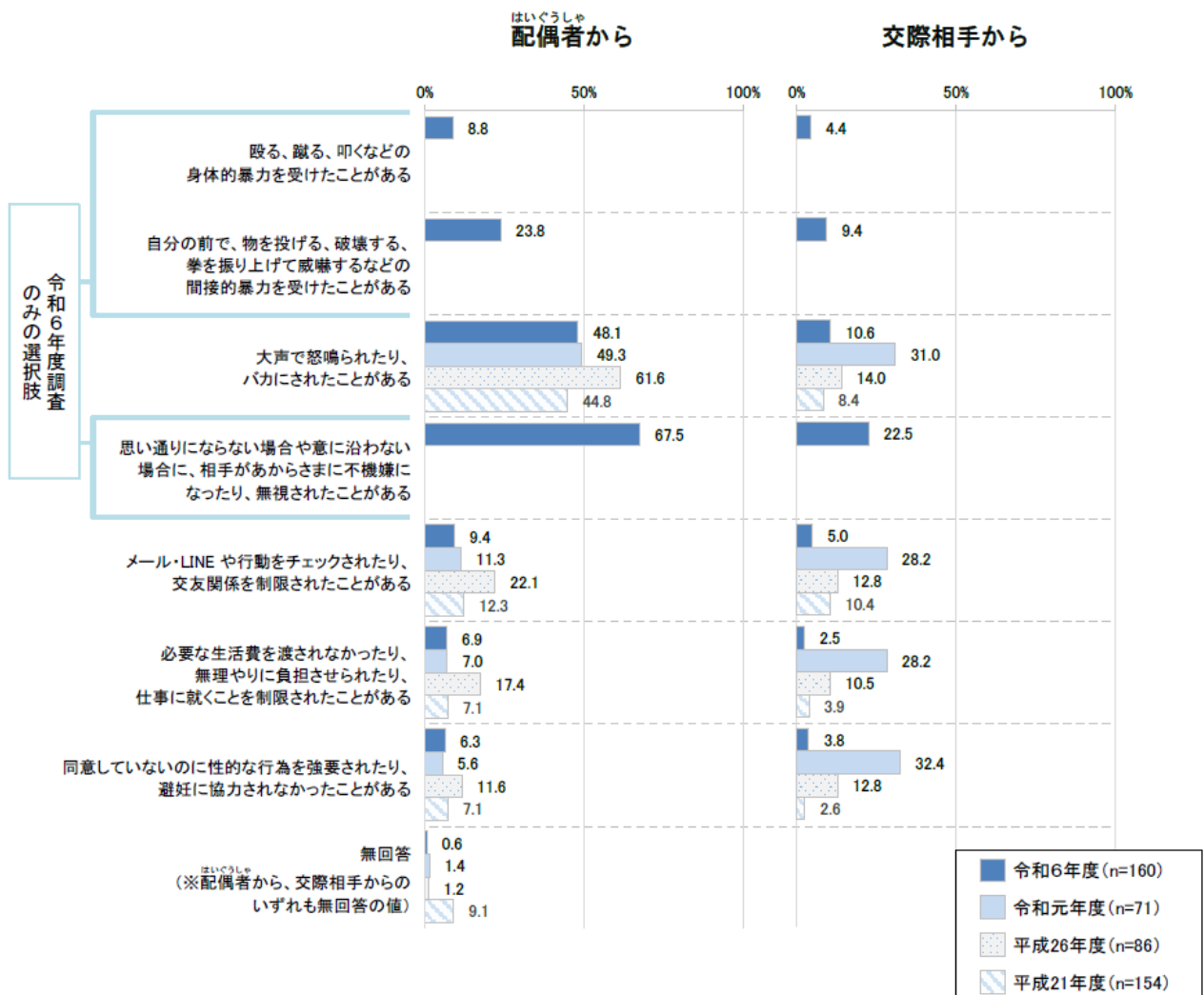
5 配偶者などからの暴力の防止・被害者支援について

問21 あなたはこの5年間で配偶者や交際相手からの暴力を経験したことはありますか。

(1) 配偶者や交際相手からの暴力経験の有無

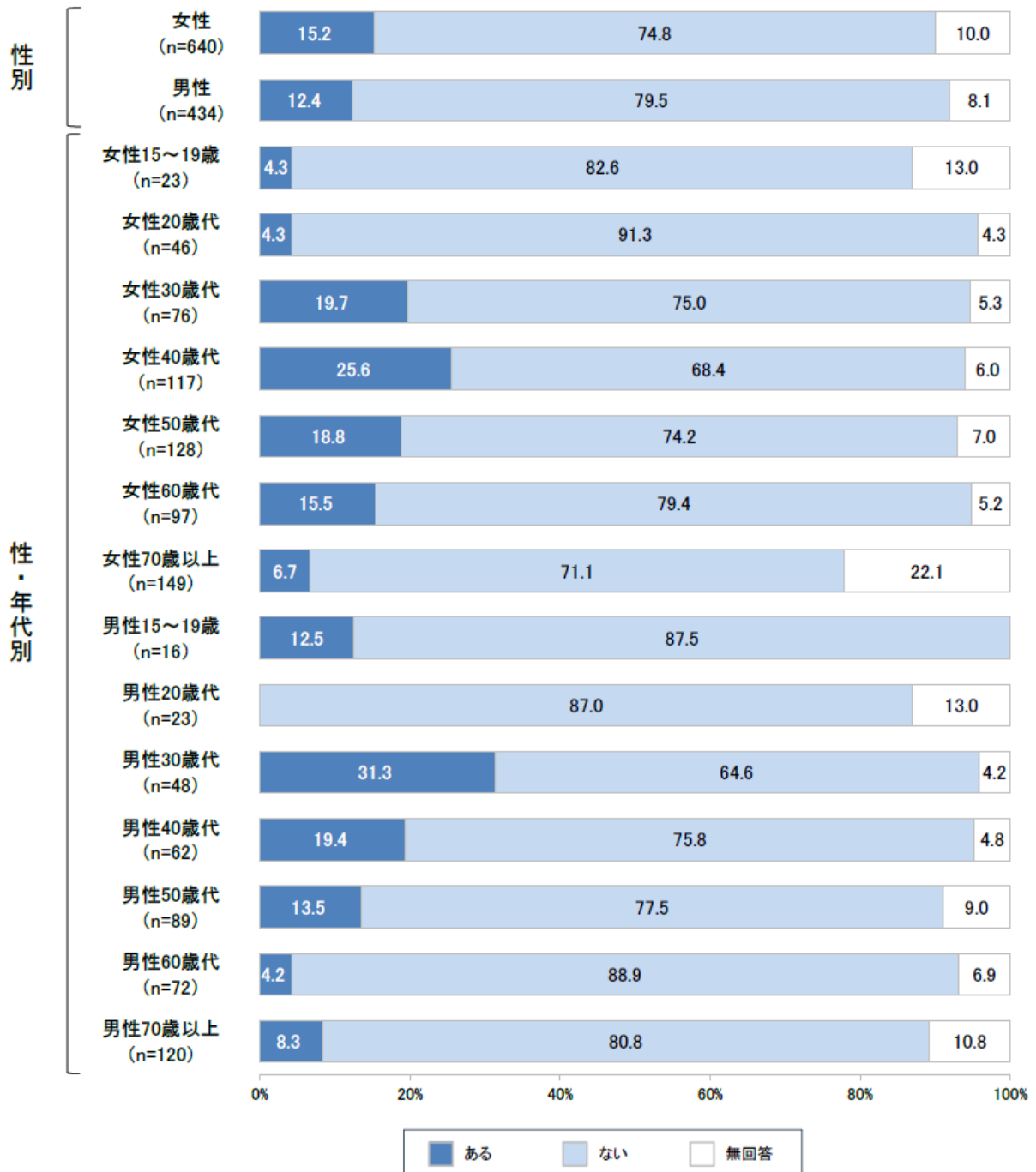


(2) 配偶者や交際相手から受けた行為



※「必要な生活費を渡されなかったり、無理やりに負担させられたり、仕事に就くことを制限されたことがある」の選択肢は、令和元年度調査以前では「生活費を無理やりに負担させられたり、仕事に就くことを制限されたことがある」となっている

はいぐうしゃ
【配偶者や交際相手からの暴力経験の有無（性別、性・年代別）】



(1) アンケート結果

- 配偶者や交際相手からの暴力経験の有無について、「ある」との回答が 14.0%、「ない」との回答が 76.3%となっている。
- 経年比較すると、「ある」と回答した割合は 6.1 ポイント、今回調査が令和元年度調査を上回っている。ただし、今回調査では「次のような行為」として提示した暴力経験の選択肢の構成が令和元年度調査以前の内容とは若干異なっているため、令和元年度以前の値と直接比較することには注意を要する。
- 配偶者や交際相手から受けた行為について、配偶者から受けた行為については「思い通りにならない場合や意に沿わない場合に、相手があからさまに不機嫌になったり、無視されたことがある（67.5%）」と回答した割合が最も高く、次いで「大声で怒鳴られたり、バカにされたことがある（48.1%）」、「自分の前で、物を投げる、破壊する、拳を振り上げて威嚇するなどの間接的暴力を受けたことがある（23.8%）」の順となっている。

- 交際相手から受けた行為についても、「思い通りにならない場合や意に沿わない場合に、相手があからさまに不機嫌になったり、無視されたことがある（22.5%）」と回答した割合が最も高く、次いで「大声で怒鳴られたり、バカにされたことがある（10.6%）」、「自分の前で、物を投げる、破壊する、拳を振り上げて威嚇するなどの間接的暴力を受けたことがある（9.4%）」の順となっている。
- 配偶者や交際相手からの暴力経験の有無について、性別にみると、「ある」と回答した割合は女性（15.2%）が男性（12.4%）を 2.8 ポイント上回っている。
- 性・年代別にみると、「ある」と回答した割合は男性 30 歳代（31.3%）が最も高く、次いで女性 40 歳代（25.6%）、女性 30 歳代（19.7%）の順となっている。

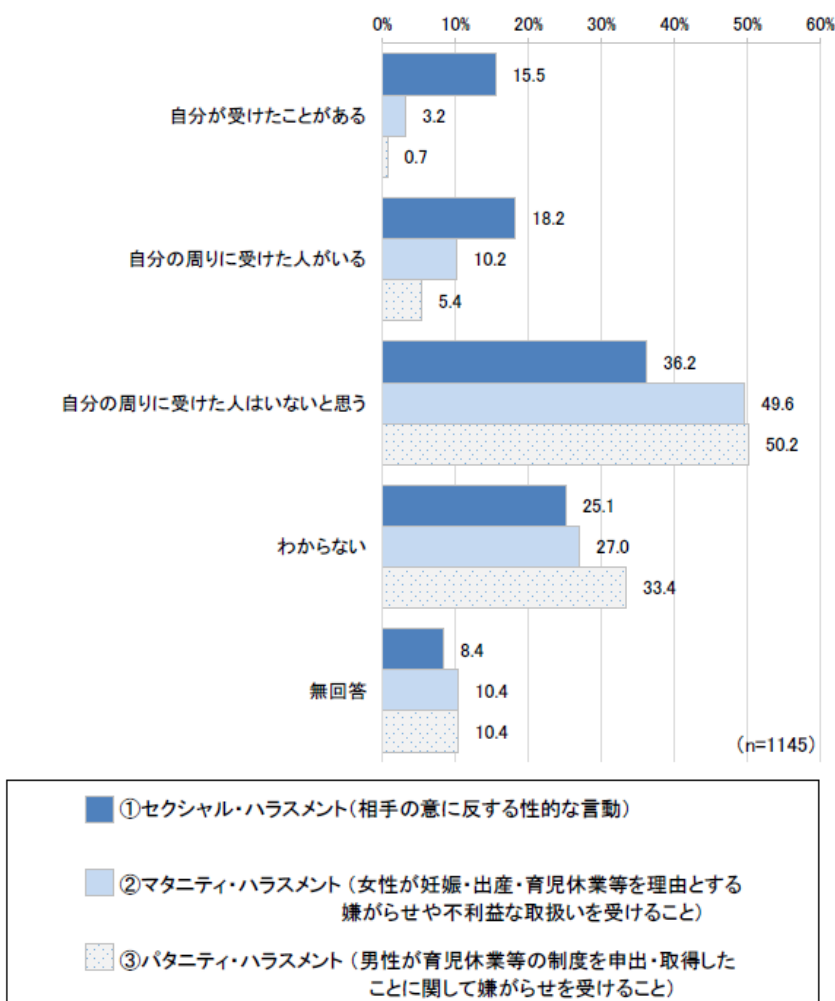
(2) アンケートから分かること

全体の 14%が配偶者や交際相手からの暴力経験があると回答しているが、DV は重大な人権侵害であり、決して許されるものではないことから、DV 防止の意識啓発と被害者の相談支援の充実を図る必要がある。

6 ハラスメントについて

問23 あなたは、以下のようなハラスメントを経験したり、見聞きしたことはありますか。

※令和元年度以前にはない問



【ハラスメントの経験、見聞きしたことの有無 ①セクシャルハラスメント

(性別、性・年代別)】

(複数回答)(%)

		回答者数 (人)	自分が 受けた ことがある	自分 の周り にいた 人が受 けたこ とがあ る	自分 の周り にいた 人が受 けたこ とがあ ると思 う	わ か ら な い
全体		1145	15.5	18.2	36.2	25.1
性別	女性	640	24.7	16.4	34.2	22.8
	男性	434	3.9	21.9	40.1	27.0
女性	15～19歳	23	26.1	21.7	34.8	13.0
	20歳代	46	19.6	23.9	34.8	21.7
	30歳代	76	34.2	18.4	34.2	18.4
	40歳代	117	35.9	22.2	31.6	18.8
	50歳代	128	34.4	20.3	32.0	15.6
	60歳代	97	19.6	11.3	43.3	23.7
	70歳以上	149	6.7	8.1	32.2	36.2
男性	15～19歳	16	18.8	18.8	31.3	37.5
	20歳代	23	4.3	17.4	56.5	21.7
	30歳代	48	4.2	35.4	35.4	22.9
	40歳代	62	8.1	27.4	33.9	30.6
	50歳代	89	4.5	23.6	42.7	23.6
	60歳代	72	1.4	30.6	43.1	22.2
	70歳以上	120	0.8	9.2	40.0	31.7

【ハラスメントの経験、見聞きしたことの有無 ②マタニティ・ハラスメント

(性別、性・年代別)】

(複数回答)(%)

		回答者数 (人)	自分が 受けた ことがある	自分 の周り にいた 人が受 けたこ とがあ る	自分 の周り にいた 人が受 けたこ とがあ ると思 う	わ か ら な い
全体		1145	3.2	10.2	49.6	27.0
性別	女性	640	5.5	13.6	47.8	24.8
	男性	434	0.2	6.7	54.6	28.8
女性	15～19歳	23	-	-	52.2	39.1
	20歳代	46	2.2	17.4	63.0	15.2
	30歳代	76	9.2	25.0	47.4	18.4
	40歳代	117	10.3	21.4	53.0	17.1
	50歳代	128	7.8	10.9	55.5	21.9
	60歳代	97	5.2	14.4	42.3	26.8
	70歳以上	149	-	4.7	35.6	36.2
男性	15～19歳	16	-	6.3	50.0	43.8
	20歳代	23	-	4.3	60.9	34.8
	30歳代	48	-	14.6	58.3	22.9
	40歳代	62	-	9.7	62.9	22.6
	50歳代	89	-	6.7	64.0	22.5
	60歳代	72	1.4	9.7	56.9	29.2
	70歳以上	120	-	0.8	40.8	35.8

【ハラスメントの経験、見聞きしたことの有無 ③パタニティ・ハラスメント

(性別、性・年代別)】

(複数回答) (%)

		回 答 者 数 (人)	こ と 自 分 が あ る 受 け た	受 け た 自 分 の 周 り に い る	い な い 受 け た 自 分 の 周 り に い る	わ か ら な い
全体		1145	0.7	5.4	50.2	33.4
性別	女性	640	0.3	6.1	51.1	33.6
	男性	434	0.9	5.1	52.3	31.6
女性	15～19歳	23	-	-	56.5	34.8
	20歳代	46	-	2.2	69.6	26.1
	30歳代	76	1.3	15.8	55.3	26.3
	40歳代	117	-	11.1	58.1	30.8
	50歳代	128	-	3.1	58.6	33.6
	60歳代	97	1.0	4.1	51.5	29.9
	70歳以上	149	-	2.7	29.5	45.0
男性	15～19歳	16	-	6.3	50.0	43.8
	20歳代	23	-	4.3	65.2	30.4
	30歳代	48	6.3	10.4	54.2	27.1
	40歳代	62	1.6	4.8	61.3	27.4
	50歳代	89	-	5.6	61.8	24.7
	60歳代	72	-	5.6	56.9	33.3
	70歳以上	120	-	2.5	35.8	38.3

(1) アンケート結果

- ①セクシャル・ハラスメント、②マタニティ・ハラスメント、③パタニティ・ハラスメントの経験、見聞きしたことの有無について、「自分が受けたことがある」との回答は①セクシャル・ハラスメントが 15.5%、②マタニティ・ハラスメントが 3.2%、③パタニティ・ハラスメントが 0.7%となっている。また、「自分の周りに受けた人がいる」との回答は①セクシャル・ハラスメントが 18.2%、②マタニティ・ハラスメントが 10.2%、③パタニティ・ハラスメントが 5.4%となっている。
- ①セクシャルハラスメントの経験について、性別にみると、「自分が受けたことがある」と回答した割合は女性（24.7%）が男性（3.9%）を 20.8 ポイント上回っている。一方、「自分の周りに受けた人がいる」と回答した割合は男性（21.9%）が女性（16.4%）を 5.5 ポイント上回っている。性・年代別にみると、「自分が受けたことがある」と回答した割合は女性 40 歳代（35.9%）が最も高く、次いで女性 50 歳代（34.4%）、女性 30 歳代（34.2%）の順となっている。また、「自分の周りに受けた人がいる」と回答した割合は男性 30 歳代（35.4%）が最も高く、次いで男性 60 歳代（30.6%）、男性 40 歳代（27.4%）の順となっている。
- ②マタニティ・ハラスメントの経験について、性別にみると、「自分が受けたことがある」と回答した割合は女性（5.5%）が男性（0.2%）を 5.3 ポイント、「自分の周りに受けた人がいる」と回答した割合は女性（13.6%）が男性（6.7%）を 6.9 ポイント、それぞれ上回っている。性・年代別にみると、「自分が受けたことがある」と回答した割合は女性 40 歳代（10.3%）が最も高く、次いで女性 30 歳代（9.2%）、女性 50 歳代（7.8%）の順となっている。また、「自分の周りに受けた人がいる」と回答した割合は女性 30 歳代（25.0%）が最も高く、次いで女性 40 歳代（21.4%）、女性 20 歳代（17.4%）の順となっている。

- ③パタニティ・ハラスメントの経験について、性別にみると、男女で大きな差はみられない。
性・年代別にみると、「自分が受けたことがある」と回答した割合は男性 30 歳代（6.3%）が最も高く、次いで男性 40 歳代（1.6%）の順となっている。また、「自分の周りに受けた人がある」と回答した割合は女性 30 歳代（15.8%）が最も高く、次いで女性 40 歳代（11.1%）、男性 30 歳代（10.4%）の順となっている。

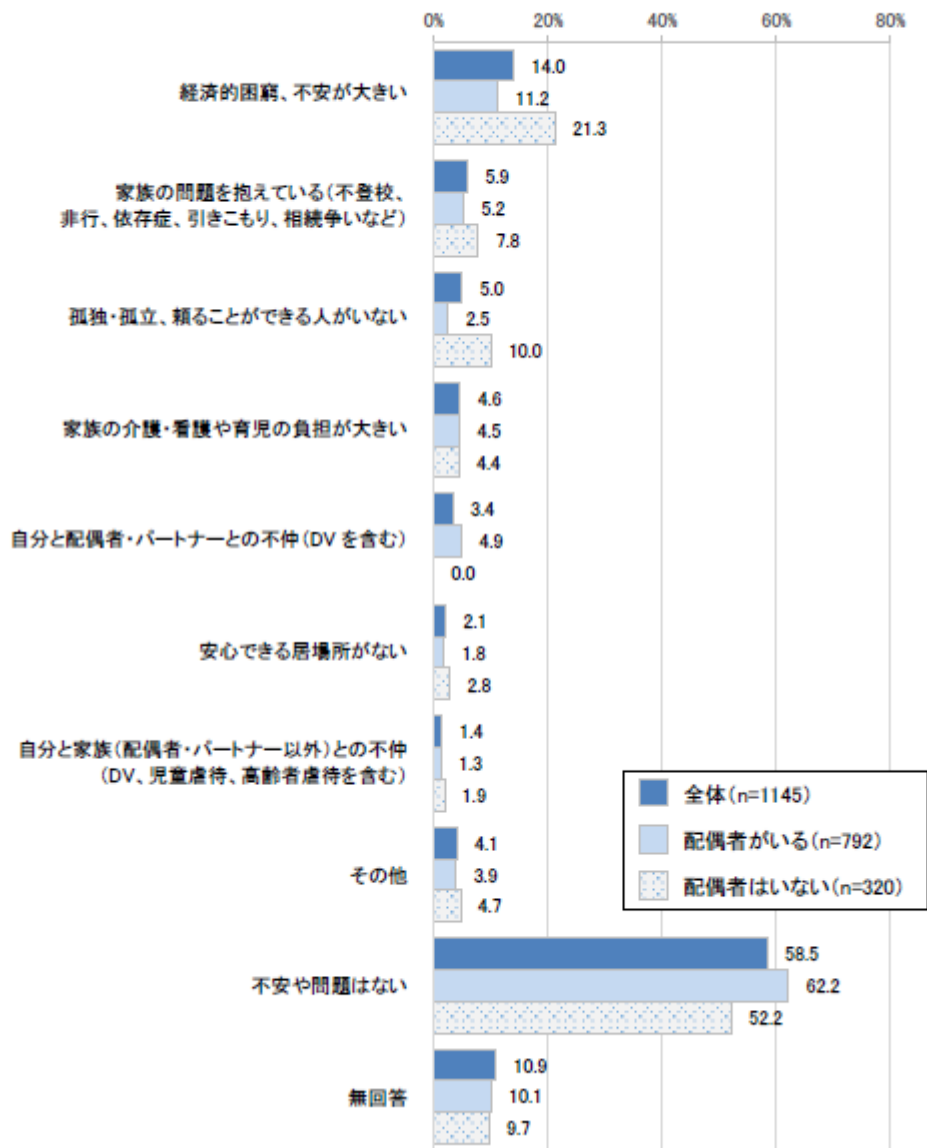
(2) アンケートから分かること

女性の約 25%がセクシャルハラスメントを受けたことがあると回答しているほか、男性 15～19 歳の 18.8%が被害を受けたと回答しており、様々な場におけるハラスメントの防止のための取組を推進する必要がある。

7 生活状況について

問24 あなたは現在、次のような家庭に関わる問題を抱えていますか。

※令和元年度以前にはない問



【家庭に関わる問題（性別、性・年代別）】

(複数回答) (%)

		回答者数(人)	経済的困窮、不安が大きい	引きこもり、不登校、非行、依存症、家族の問題を抱えている(不登校、非行、依存症、引きこもり、相続争いなど)	孤独・孤立、頼ることができる人がいない	家族の介護・看護や育児の負担が大きい	自分と配偶者・パートナーとの不仲(DVを含む)	安心できる居場所がない	自分と家族(配偶者・パートナー以外)との不仲(DV、児童虐待、高齢者虐待を含む)	その他	不安や問題はない
全体		1145	14.0	5.9	5.0	4.6	3.4	2.1	1.4	4.1	58.5
性別	女性	640	14.5	5.8	4.4	5.5	4.4	1.9	1.6	4.7	58.3
	男性	434	13.6	6.5	5.8	3.9	1.8	1.8	1.4	2.5	61.3
女性	15～19歳	23	-	-	-	4.3	-	-	-	8.7	78.3
	20歳代	46	10.9	2.2	-	-	-	-	2.2	-	87.0
	30歳代	76	19.7	9.2	6.6	5.3	3.9	2.6	1.3	5.3	60.5
	40歳代	117	20.5	8.5	3.4	3.4	9.4	1.7	0.9	6.8	51.3
	50歳代	128	17.2	5.5	8.6	10.9	6.3	2.3	3.9	3.1	50.8
	60歳代	97	10.3	5.2	1.0	5.2	3.1	1.0	1.0	4.1	67.0
	70歳以上	149	10.7	4.7	4.0	3.4	2.0	2.7	0.7	5.4	52.3
男性	15～19歳	16	6.3	6.3	6.3	-	-	-	-	-	75.0
	20歳代	23	13.0	4.3	-	-	-	4.3	4.3	-	78.3
	30歳代	48	16.7	6.3	6.3	6.3	-	2.1	2.1	2.1	66.7
	40歳代	62	19.4	12.9	9.7	4.8	1.6	3.2	3.2	4.8	46.8
	50歳代	89	15.7	10.1	9.0	5.6	5.6	2.2	1.1	4.5	56.2
	60歳代	72	12.5	2.8	5.6	1.4	-	-	-	1.4	72.2
	70歳以上	120	10.0	3.3	2.5	4.2	1.7	1.7	0.8	1.7	57.5

(1) アンケート結果

- 家庭に関わる問題について、「経済的困窮、不安が大きい(14.0%)」との回答が最も高く、次いで「家族の問題を抱えている(不登校、非行、依存症、引きこもり、相続争いなど)(5.9%)」、「孤独・孤立、頼ることができる人がいない(5.0%)」の順となっている。
- 配偶者の有無別にみると、「経済的困窮、不安が大きい」と回答した割合は10.1ポイント、「孤独・孤立、頼ることができる人がいない」と回答した割合は7.5ポイント、それぞれ配偶者がいない人が配偶者がいる人を上回っている。
- 性別にみると、「自分と配偶者・パートナーとの不仲(DVを含む)」で最も男女差が大きく、女性(4.4%)が男性(1.8%)を2.6ポイント上回っている。
- 性・年代別にみると、「経済的困窮、不安が大きい」と回答した割合は女性40歳代(20.5%)が最も高く、次いで女性30歳代(19.7%)、男性40歳代(19.4%)の順となっている。また、「家族の問題を抱えている(不登校、非行、依存症、引きこもり、相続争いなど)」と回答した割合は男性40歳代(12.9%)が最も高く、次いで男性50歳代(10.1%)、女性30歳代(9.2%)の順となっている。

(2) アンケートから分かること

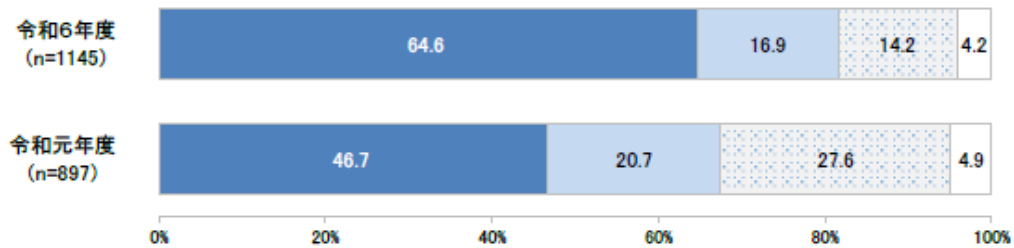
家庭に関わる問題について、男女ともに「経済的困窮、不安が大きい」、「家族の問題を抱えている(不登校、非行、依存症、引きこもり、相続争いなど)」などの問題を抱えている。なお、こうした問題は、多様化するとともに複合化・複雑化していることを踏まえ、支援機関の連携強化を図る必要がある。

8 性の多様性について

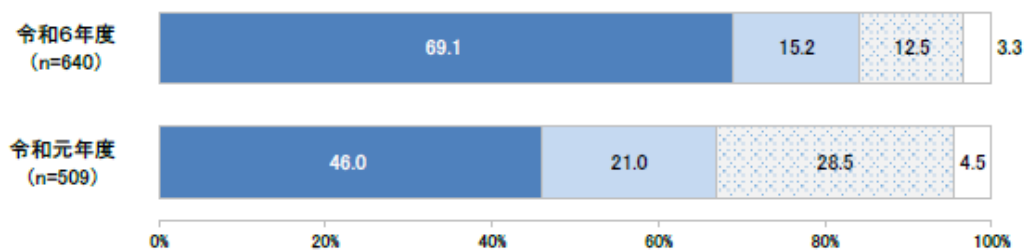
問27 あなたは、LGBT(性的マイノリティ)という言葉を知っていますか。

(全体)

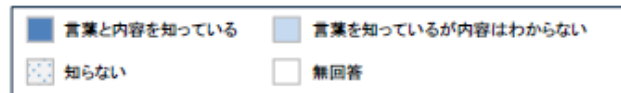
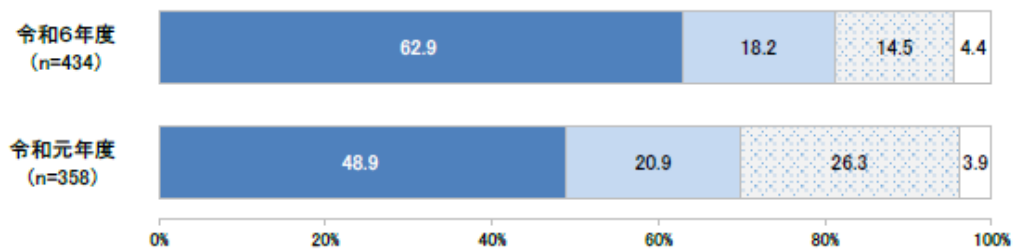
※平成26年度以前にはない問



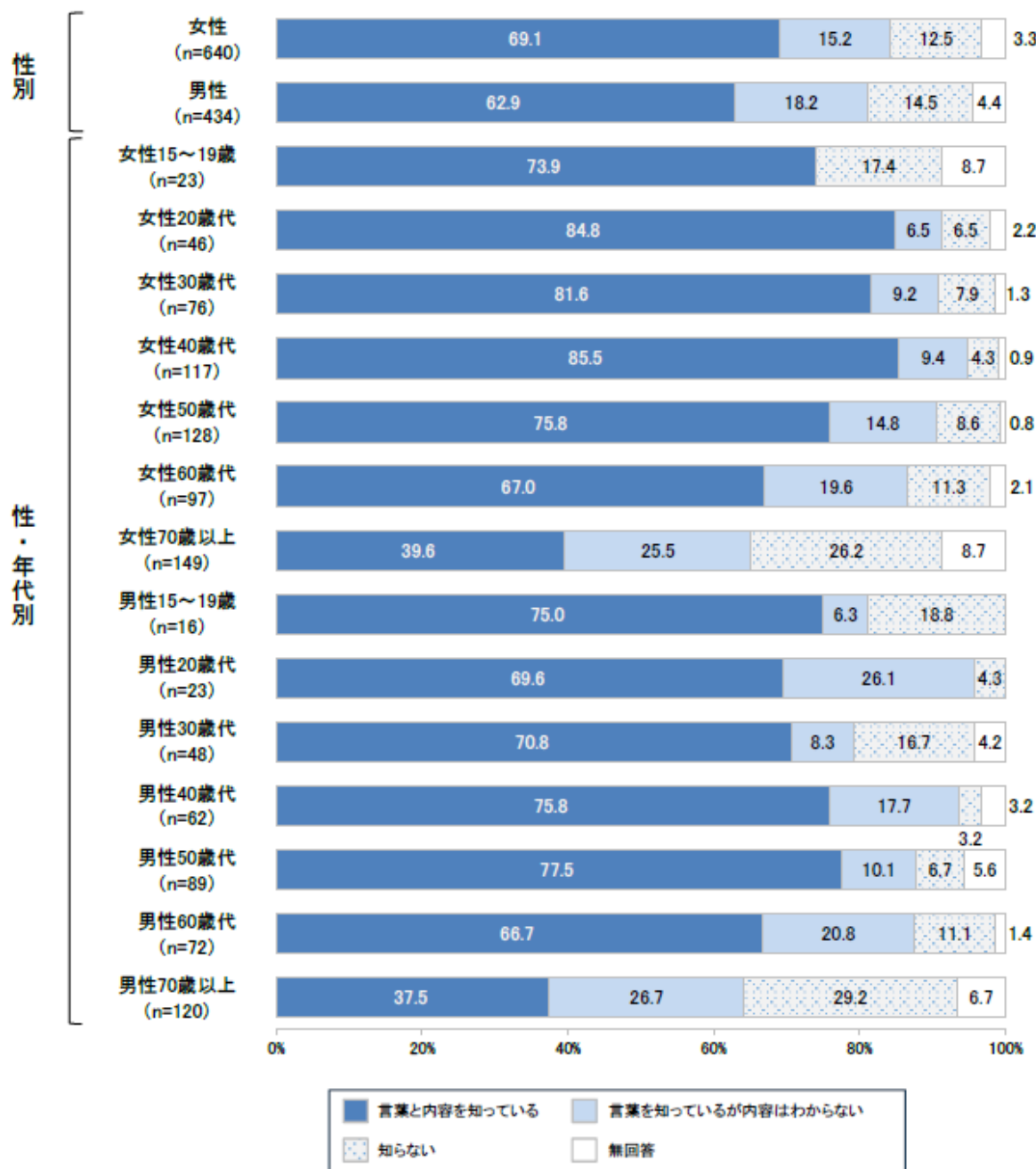
(女性)



(男性)



【LGBT（性的マイノリティ）の認知度（性別、性・年代別）】



(1) アンケート結果

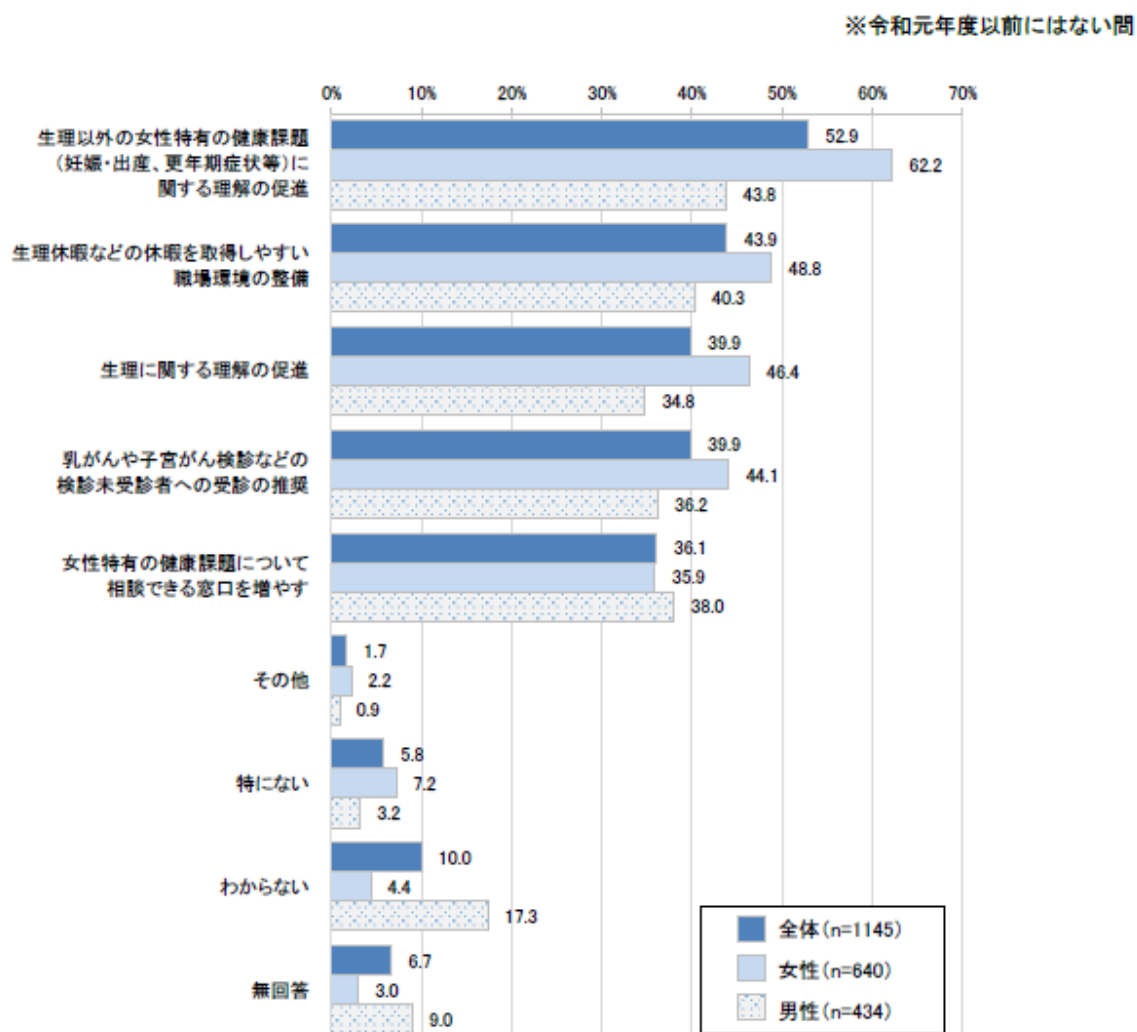
- LGBT（性的マイノリティ）の認知度について、「言葉と内容を知っている（64.6%）」との回答が最も多く、次いで「言葉を知っているが内容はわからない（16.9%）」、「知らない（14.2%）」の順となっている。
- 経年比較すると、「言葉と内容を知っている」と回答した割合は 17.9 ポイント、今回調査が令和元年度調査を上回っている。
- 性別にみると、「言葉と内容を知っている」と回答した割合は女性（69.1%）が男性（62.9%）を 6.2 ポイント上回っている。
- 男女それぞれについて経年比較すると、「言葉と内容を知っている」と回答した割合は、女性が 23.1 ポイント、男性が 14.0 ポイント、今回調査が令和元年度調査を上回っている。
- 性・年代別にみると、「言葉と内容を知っている」と回答した割合は女性 40 歳代（85.5%）が最も高く、次いで女性 20 歳代（84.8%）、女性 30 歳代（81.6%）の順となっている。

(2) アンケートから分かること

LGBT（性的マイノリティ）という言葉と内容の認知度は、前回調査時に比べて大幅に向上し、約 65%となった。引き続き、多様な性のあり方への理解の促進を図る必要がある。

9 女性の健康について

問29 あなたは、女性特有の健康課題（生理、妊娠・出産、更年期など）に対してどのような取組が必要だと思いますか。



【女性特有の健康課題に対して必要な取組（性別、性・年代別）】

（複数回答）（％）

		回答者数（人）	更年期症状等の理解の促進	生理以外の女性特有の健康課題（妊娠・出産、生理）に関する理解の促進	生理休暇などの職場環境の整備	生理に関する理解の促進	乳がんや子宮がん検診などの受診の推奨	女性特有の健康課題について相談できる窓口を増やす	その他	特になし	わからない
全体		1145	52.9	43.9	39.9	39.9	36.1	1.7	5.8	10.0	
性別	女性	640	62.2	48.8	46.4	44.1	35.9	2.2	7.2	4.4	
	男性	434	43.8	40.3	34.8	36.2	38.0	0.9	3.2	17.3	
女性	15～19歳	23	73.9	82.6	82.6	47.8	52.2	—	—	4.3	
	20歳代	46	71.7	73.9	69.6	50.0	32.6	2.2	2.2	6.5	
	30歳代	76	65.8	59.2	63.2	48.7	30.3	3.9	5.3	3.9	
	40歳代	117	76.1	50.4	53.8	45.3	33.3	4.3	5.1	1.7	
	50歳代	128	65.6	42.2	40.6	46.1	35.2	3.1	6.3	3.1	
	60歳代	97	67.0	54.6	49.5	43.3	45.4	—	8.2	2.1	
	70歳以上	149	38.9	30.2	22.8	36.2	32.9	0.7	12.8	8.7	
男性	15～19歳	16	56.3	43.8	68.8	37.5	62.5	—	6.3	12.5	
	20歳代	23	60.9	60.9	60.9	43.5	43.5	—	4.3	8.7	
	30歳代	48	54.2	62.5	50.0	43.8	31.3	4.2	4.2	12.5	
	40歳代	62	58.1	50.0	43.5	45.2	41.9	1.6	—	12.9	
	50歳代	89	48.3	39.3	36.0	33.7	36.0	—	3.4	18.0	
	60歳代	72	43.1	44.4	38.9	40.3	44.4	1.4	—	20.8	
	70歳以上	120	25.0	20.8	11.7	25.0	31.7	—	5.8	20.8	

(1) アンケート結果

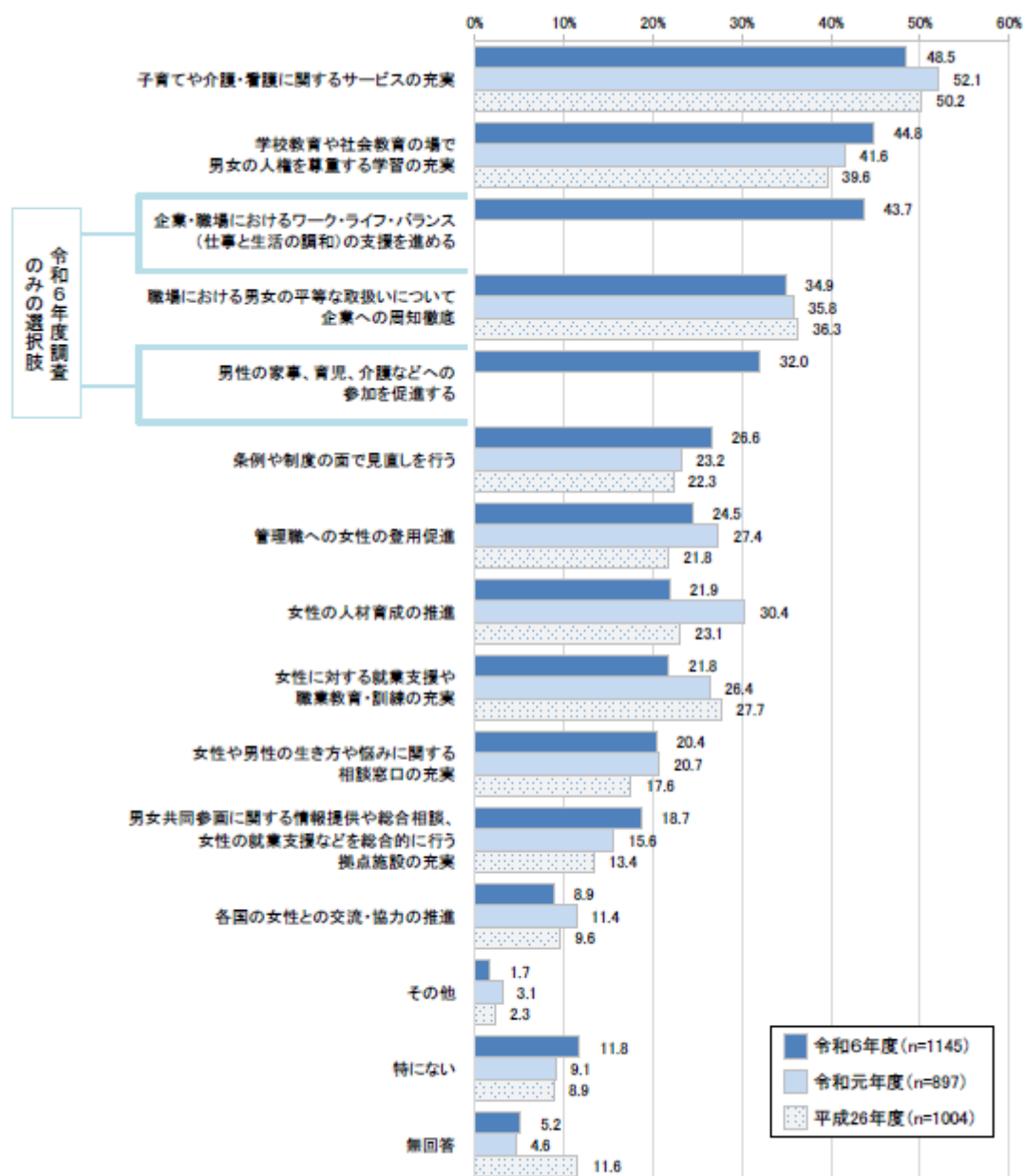
- 女性特有の健康課題に対して必要な取組について、「生理以外の女性特有の健康課題（妊娠・出産、更年期症状等）に関する理解の促進（52.9%）」との回答が最も多く、次いで「生理休暇などの休暇を取得しやすい職場環境の整備（43.9%）」、「生理に関する理解の促進（39.9%）」の順となっている。
- 性別にみると、「生理以外の女性特有の健康課題（妊娠・出産、更年期症状等）に関する理解の促進」で最も男女差が大きく、女性（62.2%）が男性（43.8%）を 18.4 ポイント上回っている。
- 性・年代別にみると、「生理以外の女性特有の健康課題（妊娠・出産、更年期症状等）に関する理解の促進」と回答した割合は女性 40 歳代（76.1%）が最も高く、次いで女性 15～19 歳（73.9%）、女性 20 歳代（71.7%）の順となっている。また、「生理休暇などの休暇を取得しやすい職場環境の整備」と回答した割合は、女性 15～19 歳（82.6%）が最も高く、次いで女性 20 歳代（73.9%）、男性 30 歳代（62.5%）の順となっている。

(2) アンケートから分かること

女性の 6 割を超える人が、女性特有の健康課題に対して、「生理以外の女性特有の健康課題（妊娠・出産、更年期症状等）に関する理解の促進（62.2%）」が必要だと回答しており、女性のライフステージに応じた健康課題の理解の促進に取り組む必要がある。

10 男女共同参画社会の実現について

問32 男女の人権が尊重され、男女が対等なパートナーとして責任を分かち合い、個性や能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」を実現していくために、あなたは広島市に対してどのようなことを望みますか。



※「男女共同参画に関する情報提供や総合相談、女性の就業支援などを総合的に行う拠点施設の充実」の選択肢は、令和元年度調査以前では「情報提供や総合相談、女性の就業支援などを総合的に行う拠点施設の充実」となっている

【男女共同参画社会の実現のために広島市に期待すること（性別・性・年代別）】

（複数回答）（％）

		回答者数（人）	子育てや介護・看護に関するサービスの充実	学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実	学校・職場におけるワーク・ライフ・バランスの支援を進める	企業・職場におけるワーク・ライフ・バランスの支援を進める	職場における男女の平等な周知徹底	男性の家事、育児、介護などへの参加を促進する	条例や制度の面で見直しを行う	管理職への女性の登用促進	女性の人材育成の推進	職業教育・訓練の充実や女性に対する就業支援や
	全体	1145	48.5	44.8	43.7	34.9	32.0	26.6	24.5	21.9	21.8	
性別	女性	640	54.1	47.7	46.3	36.7	35.5	24.7	24.8	23.3	23.6	
	男性	434	42.4	40.3	41.7	33.6	27.6	29.7	25.1	20.7	21.0	
女性	15～19歳	23	52.2	39.1	52.2	47.8	47.8	30.4	26.1	30.4	34.8	
	20歳代	46	67.4	52.2	76.1	52.2	43.5	39.1	28.3	15.2	23.9	
	30歳代	76	57.9	40.8	59.2	32.9	40.8	31.6	27.6	21.1	18.4	
	40歳代	117	44.4	47.9	48.7	33.3	39.3	27.4	35.0	32.5	29.9	
	50歳代	128	58.6	44.5	50.0	41.4	37.5	24.2	18.8	25.0	25.8	
	60歳代	97	58.8	57.7	47.4	39.2	32.0	22.7	21.6	26.8	25.8	
	70歳以上	149	49.0	46.3	24.2	28.9	25.5	14.8	21.5	14.8	16.1	
男性	15～19歳	16	43.8	37.5	43.8	31.3	37.5	31.3	25.0	12.5	18.8	
	20歳代	23	39.1	39.1	60.9	34.8	34.8	30.4	26.1	26.1	13.0	
	30歳代	48	47.9	41.7	54.2	33.3	45.8	33.3	25.0	27.1	27.1	
	40歳代	62	46.8	37.1	38.7	27.4	33.9	38.7	27.4	19.4	33.9	
	50歳代	89	46.1	39.3	48.3	33.7	22.5	31.5	25.8	22.5	22.5	
	60歳代	72	52.8	51.4	47.2	43.1	30.6	30.6	27.8	31.9	26.4	
	70歳以上	120	30.0	36.7	25.8	30.0	16.7	21.7	22.5	11.7	9.2	

(1) アンケート結果

- ・男女共同参画社会の実現のために広島市に期待することについて、「子育てや介護・看護に関するサービスの充実（48.5%）」との回答が最も多く、次いで「学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実（44.8%）」、「企業・職場におけるワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の支援を進める（43.7%）」の順となっている。
- ・性別にみると、「子育てや介護・看護に関するサービスの充実」で最も男女差が大きく、女性（54.1%）が男性（42.4%）を11.7ポイント上回っている。
- ・性・年代別にみると、「子育てや介護・看護に関するサービスの充実」と回答した割合は女性20歳代（67.4%）が最も高く、次いで女性60歳代（58.8%）、女性50歳代（58.6%）の順となっている。また、「学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実」との回答は女性60歳代（57.7%）が最も高く、次いで女性20歳代（52.2%）、男性60歳代（51.4%）の順となっている。

(2) アンケートから分かること

男女共同参画社会の実現のために広島市に期待することとして、最も回答が多かった「子育てや介護・看護に関するサービスの充実」は、前回調査時に比べて減少している一方で、次いで回答が多かった「学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実」は、前回調査時に比べて増加しており、男女共同参画社会を実現するためには、学校や男女共同参画推進センターなどにおいて男女共同参画に関する学習の充実を図る必要がある。